

図書案内

2020年 12月号

担当 2-2 瀧澤 2-6 岩折

自分を振り返る

12月です。もうすぐ2020年も終わります。今年一年、どのように過ごしましたか？ 一年の締めくくりに今年を振り返ってみるのもいいですね。ということで、今回のテーマは「自分を振り返る」です。物語や歴史などから、過去を振り返ったり、自分について考えたりしてみましょ。気持ちよく年を越すため、本年最後の月である12月を有意義に過ごしたいですね。

本は図書館で貸出しています。

『失敗だらけの人類学』 ステファン・ウェイア

人類は様々な失敗を経て現在まで歴史を積み上げた。しかもその失敗の多さは賢明で善良な人々が過失によって引き起こしたものである。本書では、なぜそのような人々が愚かな失敗をしたのかを、時代背景や要因と合わせて説明している。クレオパトラやナポレオンの失敗などが豊富な絵や写真とともに軽妙な文章で紹介されているので、世界史の勉強にも役立つかもしれない。人類の失敗を振り返り、自分の今後に活かしてみてもいい。(岩折)

人類の歴史は「失敗の歴史」ともいえる。



『家族シアター』 辻村 美月

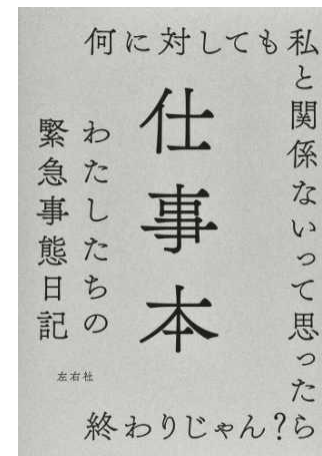
家族間で起きる話が7編入った短編集です。姉妹、姉弟、親子……。近い存在だからこそ、嫌いと思ったり、でも本当は頼りにしているなど、色々な想いをもちます。そんな中、ちょっとした事件が起こり——。登場人物たちの家族との関わりから、自分の家族との関係についても考えてみてはいかがですか？(瀧澤)

由紀枝のかわいい妹でいることは、私の役目であり、姉への祝福、悪くない、と胸を張る。

『仕事本 わたしたちの緊急事態日記』 左右社編集部

今年、世界はコロナウィルスによって大きく変化した。本書は77人のさまざまな職業の人たちが書いた2020年4月の日記を集めている。命の危険を感じながら治療する医者、コロナ禍で激務となったスーパーのパン屋、休園へのクレーム対応に追われる保育士……。彼らは何をして、何を感じて、あの激動の4月を過ごしていたのか。飾り気のない、現実的でパワフルな言葉が胸を打つ一冊。(岩折)

本当に、日々状況が変わり、情報をキャッチすることに精一杯。正直減ってしまうけど、そんなことも言ってもらえない。がんばろう。



『また、同じ夢を見ていた』 住野 よる

主人公・小柳奈ノ花は「幸せとは〇〇のようなものよ」が口ぐせの女の子。奈ノ花は、南さん、アバズレさん、おばあちゃんという3人の人物との交流を通して「幸せとは何か」について考えを深めていく。その3人の人物は、様々な過去を持った仕事も年齢も全然違う人々だが実は……。

主人公と一緒に、幸せとは何か考えつつ、登場人物たちが一体何者なのかを考えて読んでみてください。事実気づいたとき、再び読み返したくなるお話です。(瀧澤)

人生とは。全て、希望に輝く今のあなたのものよ。



「失敗」を正しく理解し、知識化する

そろそろこの激動の一年も終わりを迎えますね。突然ですが、皆さんは今年、どのような失敗をしましたか？ きっと失敗をしなかった人はいないでしょう。そこで今回は、「失敗学」における失敗の正しい理解の仕方について紹介します。失敗というと、多くの人は「原因」と「結果」の2要素から見て理解しようとしますが、「失敗学」では、「結果」から見えていない「原因」をたどっていく「逆演算」の考えを取り入れています。失敗が《要因》と《からくり(特性)》、《結果》の3要素から構成されていると考え、この逆演算で失敗という結果から、その失敗がどんな事柄の連鎖で起きたのかを探ることができます。さらに、どんな失敗が起こるか予想し、対策できることにもつながります。つまり、起こり得る事故や失敗は過去の経験を分析することで学ぶことができるのです。皆さんも今年の失敗を3つの要素に分けて分析し、将来へ活かしてみませんか。

【出典】『失敗学 失敗から学び、創造に生かす』畑中洋太郎 ナツメ社 2015年

